

個別ゼミ概要 (WEB掲示用)

作成日：2024 年 3 月 5 日

授業科目名	如水会寄附講義「如水ゼミ」			
ゼミ名	マスコミ（新聞・出版）			
講師幹事名	永井 利治		大学教員	全学共通教育センター長 南 裕子
学 期	R6 (2024) 年 春夏 ・ 秋冬	開講時間	水曜 4～5時限	
【授業の目的・到達目標】 ・ ネットニュースや SNS で最新の情報が瞬時に世界中に伝わる現在、社会におけるプリントメディアの意義とは？ 経験に裏打ちされた卒業生の講義を基に一緒に議論していきましょう。社内訪問や取材現場の見学も行います。 抽象的な内容ではなく、具体的な話を中心に4時限目で講義を行い、5時限目はディスカッション形式で進めていきます。 積極的な発言を望みます。 【上記目的・目標達成方法】 【授業の内容と計画】				
月日	講師名	卒年 学部	社名・役職 （※役職は作成日現在）	講義内容
4月24日 @国立	永井 利治	昭61社	共同通信社 論説委員長	1, オリエンテーション 2, 記者は何を追っているのか 3, 記録と記憶 4, 事実を解き明かす 5, 人と向き合う面白さとつらさ 6, メディアはどう見られているか
5月8日 @ 読売新聞 東京本社 （予定）	石橋 大祐	平11社	読売新聞 教育ネットワーク事務局	1. 概論 新聞ができるまで 2. 伝える、伝わるあなたのニュース SNS時代のニュース価値判断とは キャリア形成に活かす情報活用術 新聞で本当に就勝できてしまった件 3. 新聞社×SDGs×教育 ～じぶんごとから はじめよう～
5月29日 @国立	大場 あい	平9社	毎日新聞社 くらし科学環境部 副部長	1. メディアが伝える科学、環境問題 2. 記者の一日、デスクの一日 3. 一般紙が科学・環境を報じる意義 4. 地方機関勤務はムダ？ 5. レガシーメディアで働く価値はあるか
6月5日 @ 時事通信 本社 （予定）	織田 晋太郎	平18社	時事通信 編集委員	2017年から21年にかけてトランプ政権下の米シリコンバレーに駐在し、IT 企業を取材した経験から SNS 汚染と新しいメディアの潮流を紹介する。時事通信本社を見学し、デジタル報道の行方についても考える。 一、ロシアによる介入と SNS 汚染 一、トランプ劇場とオンライン過激主義の台頭 一、新しいメディアの潮流 一、デジタル報道の行方
6月19日 @国立	藤田 和明	平3法	日本経済新聞社 上級論説委員兼編集委員	1. 経済ニュースとは。世界を知る・自分を知る 2. 会社はいきもの。「いい会社」って何だろう 3. マーケット報道の意義。コロナ禍を先読みした 4. 株価が映すもの。会社・景気・マネー・政治 etc 5. 「投資」って何だ。そして自分の未来を考える

個別ゼミ概要(WEB掲示用)

7月3日 @講談社 (予定)	米沢	平 17 社 平 19 社院	講談社 週刊現代編集部 副編集長	・なぜ編集者は「一流シェフ」であるのか？ 狩猟採集から味付けまで ・なぜ記者と編集者はこんなに違うのか？ 週刊現代のヒット企画、現代ビジネスのPVの稼ぎ方から、『未来の年表』シリーズが売り上げ100万部超となった秘密まで ・実践編：話題となる雑誌企画、大ヒット本企画を練ろう——雑誌はタイトルが9割。本の表紙は顔面、ストーリーは身体である ・「確信犯」「敷居が高い」「なしくずし」の意味は？——出版社の良心「校閲」の現場から
----------------------	----	-------------------	------------------------	---

【学生へのメッセージ】

ネットだけでなく紙の新聞や雑誌にもよく目を通しておいてほしい。

【参考文献】 7月 3日 米沢 講師 『未来の年表』シリーズ（講談社現代新書）、あるいは雑誌「週刊現代」を読んでおいてください。

【受講生に対するメッセージ、希望】

将来、メディアの世界で働きたいと思っている学生、メディアをよく知り活用したいと思っている学生を歓迎します。

【過去の受講生の声】

新聞業界の現状、新聞社と通信社の違いなど、理解しているつもりでもまだ知らなかったこともあり、より業界に詳しくなれたと思う。また、記者にとって大事なことは、記録を探ることと、人の記憶を呼び起こすことの繰り返しであるというお話が印象的であった。

SNS で誰でも発信できる時代、新聞社が発信する意義は「新聞」としての一定の信頼の上で客観的にファクトを伝え、社会の基盤とすることにあるのだと思います。もちろん、「社会に必要なニュース」とは何か、ニュースバリューを判断する事は難しいことかもしれませんが、新聞がそうして多くの情報の中から「社会として知るべき情報」を順位づけし、わかりやすく伝えてくれるからこそ我々の社会は成り立っていると感じます。

新聞がどのような役割を社会において持っているのか、また情報を発信するとはどのような責任がついて回り難しく、またそれでいて自身に知見を多くもたらす営みであるのかについて今後も考えてゆきたいと思えた。

「何が真実なのかは結局わからない、マスメディアの流す情報が真実であるとも限らない」というお話は、マスメディアの役割について改めて考えるきっかけとなる、核心をついたお話で、特に印象的だった。

少人数だったこともあり濃いお話をたくさん聞くことができとても充実した経験となりました。はじめは就職先としてあまり出版業界を考えていなかったのですが、先輩方のお話を聞いたり、会社を見学して雰囲気を知ったりしたことを経て、かなり関心を持ちました。社内では社員さんが皆私服だったり、髪色も自由に染めている様子を見て、将来自分が働く姿を想像するにあたって社内の雰囲気というのはとても大事だと実感しました。